

世界地誌授業の展開例

——新課程での授業例とビデオ教材の使用について——

辰 己 勝*

I. はじめに

わが国の海外渡航者数は年間一千万人を超え、この10年で約2倍になった。そのうち85%が観光目的である。渡航者の年齢構成は、20~29歳が28.5%を占め、次いで40~49歳が19.3%、30~39歳が18.4%の割合となっている¹⁾。

このように多くの日本人が海外旅行等を経験し、諸外国の実情を目の当たりにしている時期に、高等学校の学習指導要領が改訂された。地理歴史科の中で最も大きな変化があったのは地理の内容である。その中で特徴的なことは、従来、地誌と系統地理は別々に取り扱われていたが、各項目(中項目)のなかで両者を一体化して、事例地域をあげて指導するようになったことである。

そこで小稿では、まず新課程での地理の授業内容の具体例を示した。次いで事例地域の指導方法として、ビデオ等の視聴覚教材の活用について言及した。これまでに、地理の授業においてはビデオの使用は盛んに行われてきたが、その具体例についての報告はあまりみられないので、今回若干の考察を行ってみた。

II. 高等学校指導要領の改訂にともなう

「地誌」的要素の変化

—地理Bの場合—

今回の高等学校学習指導要領の改訂にともなう従来より大きく変わった点は、「地誌」の扱いである。これまで地誌の学習は系統地理とは別に取り扱われ、教科書の後半にまとめられてることが多かったが、改訂によって各項目の中に組み入れられるようになった。地理Bの指導要領に示された該当部分を抜粋すると次のようである²⁾。

- 1) 「…世界の諸地域のうち2、3の地域を適切に選んで取り上げ、具体例を通して学習できるようにする。」(内容(2)のイ~オ、(3)の各項目)
- 2) 「世界の諸民族のうちから三つ程度の民族を適切に選んで取り上げ、それらの民族の生活様式を生徒の身近な生活様式とも比較しながら具体的に把握させること。」(内容(2)のア)
- 3) 「世界の諸地域を網羅的に取り上げることはせず、三つ程度の地域を選んで取り上げること」(内容(4)のア)
- 4) 「なお、世界の国々に関する文献調査については、適切な国を一つ選んで扱うこと。」(内容(1)のオ)

* 大阪市立中央高等学校
(立命館大学非常勤講師)

第1表 授業計画の例 「地理B」(2)人間と環境 ウ「自然環境の地域性」の中項目

時 限	項 目	主 な 指 導 内 容
1・2	世界の大地形、山地の地形	・大地形の分布と特徴 ・プレートテクトニクスと火山(*) ・山地や丘陵と人々の生活(*)
3・4	平野、海岸の地形と生活	・平野の分類と地形の特徴 ・沖積平野の地形と生活 ・海岸地形の特徴とその利用
5・6	気候と気候要素	・気候要素の特色と気候区分の説明 ・雨温図とハイサーグラフの作成
7・8	世界の気候区	・各気候区の概説(*)
9・10	高地の自然と生活 —アンデスを例に—	・アンデスの地形と気候 ・高地の生活の特色 ・ボリビア(ラパス)での生活(*)
11・12	乾燥地域の自然と生活 —サハラ砂漠を例に—	・世界の砂漠の分布 ・砂漠の地形と気候の特色 ・サハラ砂漠での生活(*)
13・14	寒冷地域の自然と生活 —シベリアを例に—	・寒帯、亜寒帯気候の分布と特色 ・シベリア(タイガ地域)の自然と生活
15・16	身近な地域の自然環境 —大阪平野を例に—	・大阪平野の地形区分と平野の発達史 ・淀川の治水と大阪湾岸の干拓、埋立て

(*) はビデオ教材を使用した項目

このように今回の改訂では従来の系統地理と地誌の両方の長所を適切に取り上げて学習の成果が上がるように配慮したといわれる。特に上記の大項目「(2)人間と環境」および「(3)生活と産業」においては、項目は系統地理で、その中の中項目では、2～3の地域を適切に選んで取り上げ、地誌的に学習するような構成が図られている。

なお新設の地理A(2単位用)についても、概ねこの方針が貫かれている。ただ、指導要領の表現では、各項目で「二つまたは三つの事例」を扱うとなっているが、新しい教科書をみると、地理Bと同様に、あるいはそれ以上に該当の各項目で2、3の事例地域の学習に重点がおかれている。

そこで、新しい地理Bの教科書を使った指導の実例を示してみよう。

Ⅲ. 授業計画の例

第1表には「地理B」の「(2)人間と環境」のうち、ウ「自然環境の地域性」の項目についての授業計画を示した³⁾。以下には、それぞれの時間についての内容の重点と留意点をまとめた。このうち1・2時から7・8時まででは従来の自然環境(地形・気候)の学習方法の精選をはかったものであるが、9・10時以降が新しい展開である。なお勤務校では2時間の連続授業をしているので、それに対応した計画である。

1) 1・2時「世界の大地形、山地の地形」

世界の大地形を、安定陸地、古期造山帯、新期造山帯に区分し、その成因と地形の特徴を説明する。そして、具体的な事例として、インド半島とヒマラヤ山脈の形成を例に、プレートテクトニクスの理論を用いて解説する。

ここでは、ビデオ教材として「地球大紀行、引き裂かれる大地・巨大山脈の形成」(NHK特集)をあらかじめ20分程度に編集(ヒマラヤ山脈の形成とアイスランドの火山活動を主体としたもの)して使用する。

そして日本列島も新期造山帯に属し、地震や火山災害に見舞われやすいことを理解させる。

また山地は、生活や交通の障害になることも多いが、一方では、観光地や避暑地になったり、豊富な水力・森林・鉱産資源の供給地であり、その保全も大切であることを認識させる。

2) 第3・4時「平野、海岸の地形と生活」

平野を侵食平野と堆積平野においてその成因と形態の特徴をまとめておく。そして、世界の大平野の多くは安定陸地に分布し、侵食平野であることを理解させる。

堆積平野は日本を事例として、地形図の読図や作業を通じて、地形の形態や成因を説明する。特に、地形の理解については、模型や写真を多く見せて実際の形を認識する事が必要で、ビジュアルな側面からの指導を多く取り入れるように配慮する。

平野の少ない日本の場合、平野内の土地の利用が微地形ごとに工夫され、人々は自然に働きかけて土地を最大限に利用してきた。それらの歴史についても指導する。

平野はまた河川の氾濫や高潮、地盤沈下などの自然災害を被りやすい場所でもあり、日本では、築堤や用排水路の整備などが大規模に進められてきた。しかし、バングラデシュなどでは毎年のように大水害が発生している。その実情と原因についても考察する。

3) 第5・6時「気候要素と気候区分」

はじめに、気候要素について説明をした後、身近な地域の気候の年間の変化(ここでは大阪)を知るため、雨温図を作成する。

次いで世界の気候区分について、ケッペンの分類方法を示し、気候区分図と各気候区毎の雨温図やハイサーグラフを作成し、それぞれの気候区の特徴を調べる。

4) 第7・8時「世界の気候区の特徴」

世界の気候帯を熱帯から順に寒帯までそれぞれの気候区の分布と、そこでの人間生活を簡単に説明する。あわせて植生と土壌の分布の特徴にもふれて、農業との関連についても考えてみる。

ここでは、まとめとして気候区に関連する写真集やビデオを見せ、それらから気候区を判別できるかどうかを試してみる。

(熱帯雨林・サバナ・ステップの景観、西ヨーロッパ・東南アジアの農業景観、砂漠・タイガ・ツンドラ等の代表的な景観等)

5) 第9・10時「高地の自然と生活」

日頃親しみの少ないアンデスが事例地域として取り上げられているため、はじめにアンデスについて知っていることを書いてもらうという簡単なアンケートを行なう。ついで、ビデオを放映し第9時を終える。(ビデオ教材として「インカの末裔」NHK 世界紀行、45分を使用した。)

第10時では、ビデオを見た感想等を書かせたビデオ視聴ノート(第1図)を参考にして、生徒の疑問点の解明が出来るように心がける。

また、時間内には無理であるが、作業として、南アメリカの白地図に、国名、首都、主要都市、気候区分等を記入する。さらにアンデス山脈とその周辺については、高度別に着

ビデオ視聴ノート	
視聴日時：__月__日__限	()年()組()番氏名()
テーマ []	
1 内容の要約	
2 よくわかった事項	
3 わかりにくかった事項	
4 質問事項	
5 ビデオ内容の評価	(5 4 3 2 1)
6 理解度	(5 4 3 2 1)
* 5段階で評価 (5：最も良い 3：ふつう 1：最も悪い)	

第1図 ビデオ視聴ノートの例

色等をして、山地の地形の特色と高地に立地する都市を調べてみる。

6) 第11・12時「乾燥地域の自然と生活」

サハラ砂漠を事例として、乾燥地域の苛酷な自然環境と、そこでの人々の特色ある生活について説明する。はじめに、サハラ砂漠での一般的な地形と気候の特徴を述べ、オアシスでの農業の特色をまとめる。次いで教科書に記載されたアルジェリアのインベルベル村の実状について解説する。

(ここでは、ビデオ教材として、帝国書院「世界の人々と暮らし、中・南アフリカ」のサハラ砂漠の部分放映する)

7) 第13・14時「寒冷地域の自然と生活」

シベリアを取り上げて、寒冷地域の説明をするが、広大な地域のために西シベリア低地

と中央高原・東シベリア山地に分けてそれぞれの気候と地形の特徴を述べる。また、北極海に近いツンドラ地帯から内陸に向かってタイガ、混合林への植生の変遷にもふれる。ここでの主な居住地域はタイガ地帯であり、ここでは寒冷な気候を克服するために工夫された生活の近代化について解説する。

8) 第15・16時「身近な地域の自然環境」

自然環境学習のまとめとして、また、地域調査の事前学習としても、身近な地域の地形や気候について学習することは有意義である。そこで、大阪平野を取り上げ、地形の形成過程と人為的な改変の歴史について、地質学、考古学の研究成果もふまえ、時代ごとの変遷を調べてみる。大阪平野は上町台地と周辺部の丘陵地を除くと大半が標高 5m 以下の低

地である。そのため人々は、古来より、水害と戦い、干拓、埋立て、築堤工事を繰り返しながら、生活の場を拡大してきた。この具体例を地形図、土地条件図及び古地図等を使って淀川沿岸と大阪湾岸について解説する。

Ⅳ. 指導上の留意点と課題

1) 留意点

自然環境を指導する場合、いきなり事例地域をあげても、地形や気候などの基礎知識を欠いていたのでは「自然環境の地域性」を理解することは難しい。しかし、従来のようにそれぞれの項目について、詳しく小地形、気候区の特徴を教えるのでは今回の改訂の主旨である「地域の自然環境を総合的にとらえる」ことから逸脱してしまう。そこで、第1時から第8時までは最小限に項目を限定して概説を行う。次いで、それぞれの事例地域を取り上げた時に、人々の生活と関連させて具体的に自然環境の特徴を指導できるように考慮すべきである。

また、順序をかえて第1・2時のあとに、第9・10時（アンデス）を入れ、山地地形と

関連させて指導するなどの工夫も必要となる。

2) 検討すべき課題

各項目について、2、3の事例地域の学習が課せられているが、教科書によって取り上げている地域が異なっている（第2表参照）。そのため、それぞれの項目を指導する際にその地域が事例として適切かどうかの判断がつきにくい。

また、指導内容も個人差があり、事例地域の学習方法に一貫性がない。その結果、従来の系統地理的学習が主体になり事例地域の学習は軽視されがちになることが懸念される。さらに、時間的な制約からも各項目で2～3の地域を取り上げることが困難になり、1つの地域の学習のみで終えなければならない場合も多く発生している。

このような状況で、地誌的な学習を定着させるためには、教える側が発想を転換して、これまでの系統地理主体の指導方法からの脱皮を図らねばならない。そのためには、事例地域に対する十分な教材研究と、新たな実践方法の確立が必要となっている。

その一つとして、ビデオ教材の使用法についても簡単に述べてみる。

第2表 各社教科書に取り上げられた事例地域（地理B「自然環境の地域性」の項目、平成6年度用）

A社	アンデス高地	サハラ砂漠	シベリア
B社	アメリカ合衆国	ヨーロッパ	日本
C社	熱帯南アメリカ	西ヨーロッパ	
D社	アフリカ南西部	ニュージーランド	カナダ
E社	アンデス高地	ガンジス川下流	サハラ砂漠
F社	ヨーロッパ	アンデス諸国	モンスーンアジア
G社	サハラ砂漠	赤道湿潤アフリカ	
H社	北アメリカ	シベリア	日本

V. ビデオ視聴の効果的な利用法

高等学校のビデオ教材の使用頻度が最も高いのは社会科で、次いで理科となりともに3割近い学校で使用されているという調査結果⁵⁾もある。近年はこの比率はさらに高くなっているものと思われる。

地理の授業では、従来から各項目でビデオ教材を用いる事が多かった。そして、その効果や留意点についても若干の指摘はあった⁶⁾。しかしながら、今回の学習指導要領の改定にともなう事例地域の学習に際してのビデオ教材の使用についてはほとんど言及されていないようである。

今回、前記のように事例地域の指導時にビデオ教材を使用したところ、かなりの生徒がその地域についての理解が深まったと報告し

た。とりわけ、アンデス、サハラ砂漠、シベリア等のように、なじみの薄い地域を指導する際には適切なビデオ教材があると大いに手助けとなった。そこで、ビデオ教材を実際に使用する際の留意点をまとめてみた。

なお、あらかじめ生徒が事例地域についての程度の子備知識をもっているかを知るために簡単なアンケートをとり、それをビデオの編集や授業の進め方の参考にすることも有効であったのでその一部を第3表に示した。

1) 導入部に使用する場合

初めの10分程度にまとめ、事例地域の最もポピュラーな映像を示し、地域に対する親しみを増すようにする。または、生まれて初めて経験するような内容のものを示し、カルチャーショックを受けやすいものやインパクトの強いものを選ぶようにする。

第3表 事前アンケートの結果

(各項目について知っていること・イメージを自由に書いてもらう)

1) アンデス山脈 (高校生35人の回答)

南アメリカ最高峰	南北に長い	インカ帝国	雪が積もる	高地に住んでいる
新期造山帯に属する	ジャガイモの原産地	インディオの国	コンドルがいる	
ポンチョを着てケーナを吹く人々がいる		スペインの影響でキリスト教	チリの大部分	

2) タイ国 (大学生地理学科1回生20人の回答)

温暖な気候	浮稲	米の輸出国	植民地支配を受けたことがない	立憲君主国である
王室がある	仏教国である	バンコクに人口集中	日本車が多い	工業化が進む
辛い食事が多い (トムヤンクンなど)		無血クーデターがおこる	水上マーケットがある	
川で入浴する	ごちゃごちゃしている	エイズが多い	キックボクシングが盛ん	
セパタクローの発祥地	貧富の差が大きい			

3) オーストラリア (同上)

雄大な自然	内陸部に砂漠	エアーズロック	珊瑚礁	グレートバリアリーフ
石炭・鉄鉱石・ボーキサイト等が豊富		コアラ・カンガルー・羊	アボリジニー	
イギリスの植民地・流刑地	日本と季節が反対	赤茶色のイメージ	オージービーフ	
日本との貿易 (輸出が多い)	日本のリゾート化	ラグビーが盛ん		

2) 内容説明時に使用する場合

全体で30分程度にまとめてあるものを選ぶか編集して、授業内容に則したものを必要がある。

3) まとめに使用する場合

あらかじめ内容の紹介をした後で放映し、授業内容の反復を兼ねるようなものに編集しておくことが大切である。

4) 全時間を視聴に当てる場合

テーマを示したのち、掛地図等で放映地域の位置を示し、机上にも地図帳を開いたままで視聴する。放映中に視聴内容を記録させて、理解できた事項をチェックする。

(第1図の「ビデオ視聴ノート」を使用する)

Ⅵ. ビデオ教材の例

授業で使用するビデオ教材については、市販のもの、自作作品およびテレビ番組の録画等それぞれの長所や問題点があり、それらを把握したうえで使用することが要求される。そこで、簡単にそれらをまとめてみた。

1) 市販のビデオ教材

各項目や国、地域別にコンパクトにまとめて(15分~30分)、内容も精選されているが、購入費用が高く(一巻1~2万円)、さらに撮影時期が古いものもある。

2) テレビ番組の録画

30~50分のものから数回のシリーズものまで様々であり、その内容をよく検討した上で、

第4表 海外旅行に基づいた自作ビデオの主な項目

●タイ (1991. 8)	タイの仏教寺院と遺跡	タイの農村と山村	水上マーケット
	バンコクの交通渋滞とスコール	山岳少数民族の村	
	メコン川と国境の町	民族舞踊とタイ料理	
●オーストラリア (1992. 8)	タスマニアの都市散策 (ホバート・ロンセストン・デボンポート)		
	タスマニア島の自然と動物	メルボルンの都心と郊外	羊毛工場と羊の毛刈り
	キャンベラの計画都市	シドニーの都市景観	
●ローマ (1994. 1)	古代遺跡・史跡を歩く	パチカン市国 (サンピエトロ寺院)	
●パリ (1994. 1)	都市景観と市内観光	デファンス地区	ルーブル美術館
●イギリス (1994. 8)	スコットランドの地形	スコッチウイスキー工場の見学	
	エジンバラ・グラスゴー・インバネスの都市景観		
	ハドリアンウォールとアントニアンウォール		
	湖水地方の自然と観光	中世起源の諸都市と古城・教会	
	マンチェスターとリバプール	学園都市ケンブリッジ	
	ロンドンの名所と大英博物館		
●オランダ (1994. 8)	アムステルダム市内散策	ロッテルダムとユーロポート	
	オランダ鉄道の旅		

授業内容に合わせるために編集することが必要となる。また、編集機器等の使用にも日頃から慣れておかねばならない。

3) 自分で撮影したビデオ

撮影者がそれぞれの場면을説明しながら放映できるため、臨場感、新鮮味がある。しかし、時には、主観的、一面的な見方をおしつけることになるので、その点を注意しなければならぬ。

これまでの海外旅行で撮ったビデオを第4表のような、地域・項目、テーマごとに編集し授業に適宜活用している。

Ⅶ. おわりに

今回の学習指導要領の大幅な改訂により地理歴史科では世界史のみが必修科目になり、地理は選択科目になっている。そのような状況のなかで、従来の「地名、物産の地理」、「暗記の地理」のイメージを一掃して、生徒に興味をもてる地理学習を構築するためには、改訂の趣旨をふまえ、教える側の一層の努力が必要になっている。

とりわけ、各項目の事例地域の指導方法については、これまでに多くの試案や実践例⁷⁾が報告されているが、それらを参考にしながらなお十分な研鑽を積まなくてはならない。

ビデオ教材については、限られた時間・設備の中でより効果的な利用が出来るように、配慮する必要がある。そのためには指導者が編集作業にかかわり、内容をそれぞれの授業に合うものにしたうえで放映することが大切である。最近では、ビデオ編集機⁸⁾の普及や視聴覚教室・機器の整備も進んでおり、指導者がそれらの操作に慣れることが要求されて

いる。さらに、地理教育に利用できるテレビ番組も多いが、安易な使用は避け、授業のなかでの位置付け、その効果、生徒の反応等についても十分に考慮したうえで教材化する必要があることを痛感している。

〔付記〕小稿は平成6年度立命館地理学会に於いて発表した内容をもとに加筆、訂正したものである。鈴木富志郎先生はじめ立命館大学地理学教室の諸先生からは発表の機会を与えて下さいました。また当日、貴重な御意見を賜りました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 1985年は約495万人であったが1990年には約1,100万人、1993年には約1,194万人に増加した。(総理府「観光白書」1994年等による)
- 2) 文部省編『高等学校学習指導要領』、1989、35～42頁。
- 3) 使用している教科書は、『新詳地理B 最新版』、帝国書院である。
- 4) 前掲2)、39頁。
- 5) 野津良夫編著『視聴覚教育の新しい展開』、東信堂、1989、81～86頁。
- 6) 木原健太郎他1名編著『よい授業を創る社会科テレビ学習』、明治図書、1980、142～151頁。篠原明雄編著『地理の授業展開』、学事出版、1981、234～240頁。
- 7) 主なものに以下の単行本、論文等がある。澁沢文隆編『新「地理B」を創る』、古今書院、1990、192頁。澁沢文隆他2名編『改訂高等学校学習指導要領の展開 地理歴史科編』、明治図書、1990、327頁。澁沢文隆編『新高校地理授業の工夫とアイデア』、古今書院、1994、252頁。徹地理会『徹地理会 研究報告集Ⅳ』、1994。古今書院『地理』1989、4月号、特集「新学習指導要領を読む」同上 1994、4月号、特集「高校新教科書を読む」辰己 勝「新課程「地理B」の授業をふりかえって」、地理と地図資料、1995、2、帝国書院、21～22頁。
- 8) 使用している編集機は、パナソニック編集コントローラ A770 型である。